

口永良部島噴火に係る関係省庁災害対策会議（第4回）

議 事 次 第

日時：平成27年6月1日（月）17:00～

場所：合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

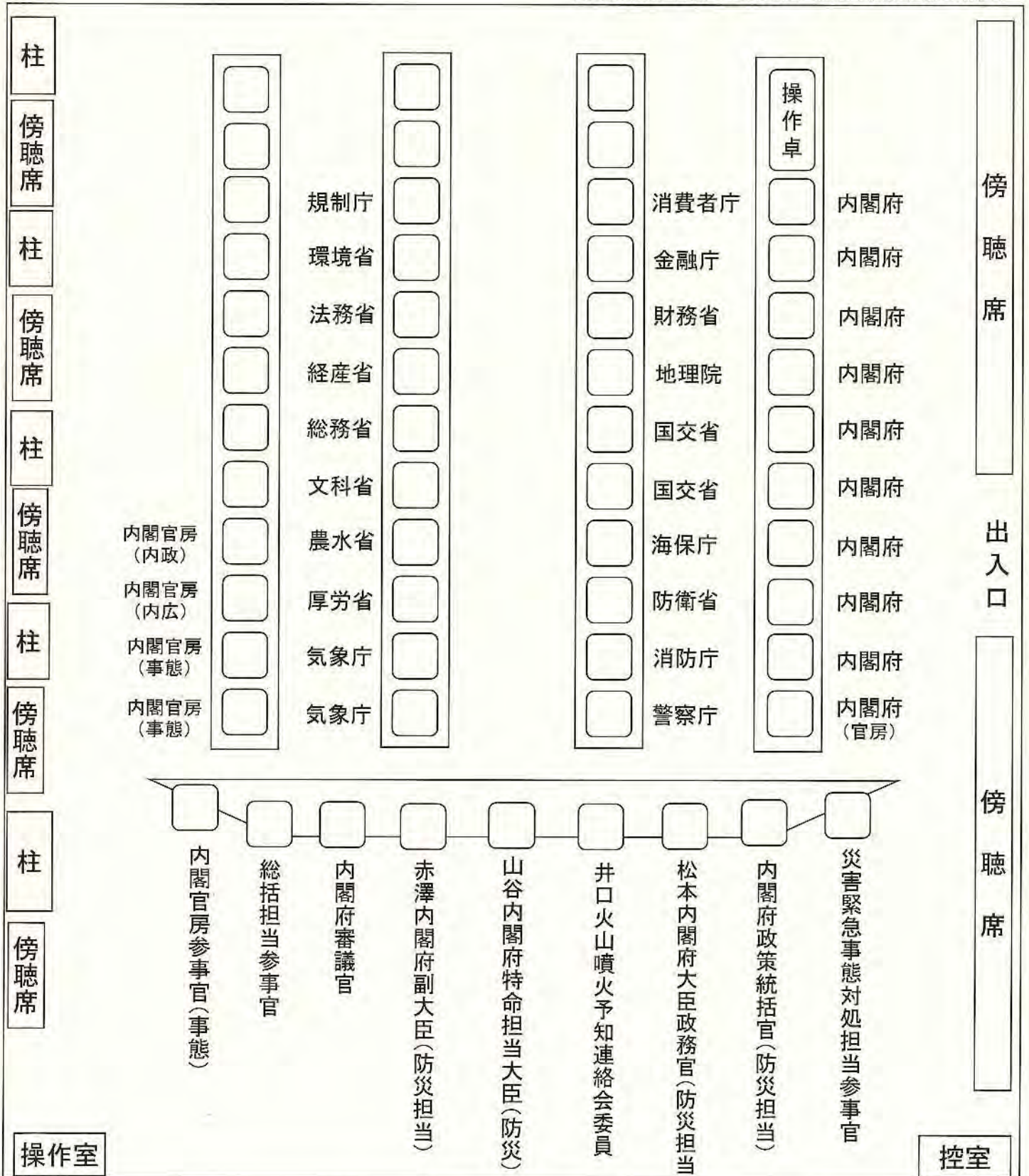
1. 山谷内閣府特命担当大臣（防災）挨拶
2. テレビ会議（鹿児島県庁、屋久島町役場）
3. 今後の火山活動の見通し
4. 各省庁の対応状況
5. その他

口永良部島の噴火に係る関係省庁災害対策会議(第4回)

配席図

平成27年6月1日(月)17:00~

中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室



1 気象庁

口永良部島の火山活動について

平成 27 年 6 月 1 日
15 時 30 分 現在
気 象 庁

1 今回の噴火の概要

- ・新岳では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生。
- ・この噴火により、噴煙が火口縁上9,000m以上まで上がった。また、火砕流が発生し、新岳火口の南西側から北西側（向江浜地区）方向の海岸まで達した。
- ・口永良部島で噴火が発生したのは、平成26年8月3日以来。
- ・5月29日午後、九州地方整備局の協力により気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測では、火砕流は新岳火口からほぼ全方位に流れており、特に北西方向ではっきりと確認。また、火口の東側で火山灰を確認。
- ・5月30日朝に鹿児島県の協力により気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、新岳の南西側斜面と古岳の南東側斜面で樹木の変色域を確認。新岳から向江浜地区にかけての新岳北西側の斜面では、海岸付近の近傍にいたるまで、樹木が一様に下流側に倒れているのを確認。
- ・5月31日九州地方整備局と四国地方整備局の協力により、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測では、山麓や海岸付近の状況に特段の変化なし。
- ・震動データ等から、噴火は5月30日10時50分頃に停止した模様。以後、噴火は発生していない。5月31日16時以降、白色の噴煙が最高で火口縁上200mまで上がっているのを確認。

（気象概況）

- ・今日1日夜は、曇りで雨の降る所がある見込み。
- ・明日2日からは、前線や湿った気流の影響で、雨の降る日が多い見込み。

2 気象庁の対応

- ・口永良部島の火山活動状況について、地震計、空振計、傾斜計、遠望カメラ等の観測ネットワークにより24時間体制で監視している（常時観測火山）。
- ・火山活動状況については、昨年8月の噴火以降、毎日地元自治体に提供
- ・気象庁は本年3月24日に火映を観測して以降、現地に機動調査班（JMA-MOT）を常駐させ、新岳の活動状況や表面現象等の変化について詳細な調査を実施するとともに、地元自治体への情報提供を強化。
- ・5月23日08時00分には震度3の有感地震が発生し、10時45分に臨時の解説情報を発表。同日、口永良部島火山防災連絡会コアグループ会議に参加、現地にて住民説明会を実施。これを受けて、地元自治体において避難体制を確認。

- ・ 5月29日10時07分 噴火警報（居住地域）を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から5（避難）に引き上げ。同時刻、気象庁本庁非常体制
- ・ 噴火警報等を発表するとともに、地元自治体をはじめ、関係機関に対する解説及び資料の提供を適宜実施
- ・ 火山活動状況に関して記者会見（5月29日11時30分）
- ・ 九州地方整備局、四国地方整備局、鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が上空からの観測を実施（5月29日11:10、30日06:40、31日13:30、6月1日14:00）
- ・ 鹿児島県災害対策本部会議に出席（5月29日～）
- ・ 鹿児島県、屋久島町、及び関係機関に対して、気象支援資料を提供（5月29日～、1日3回（毎日5時、11時、17時頃）の提供）
- ・ 屋久島町役場において職員2名が政府現地連絡調整室と連携し対応（5月29日～）
- ・ 鹿児島県庁において職員2名が災害対応支援及びリエゾン活動を実施（5月29日～）
- ・ 気象庁ホームページに口永良部島噴火に関するポータルサイトを開設（5月29日～）
- ・ 火山噴火予知連絡会拡大幹事会を開催し、見解を取りまとめ（5月30日）

3 気象庁の今後の対応（6月1日15時30分現在）

- ・ 火山の状況に関する解説情報を当面10時と16時の1日2回発表予定
- ・ 屋久島町役場において職員2名が政府現地連絡調整室と連携し対応中
- ・ 鹿児島県庁において職員2名が災害対応支援及びリエゾン活動を実施中
- ・ 口永良部島の観測強化の一環として、地震計を増設予定（6月1日）

口永良部島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

口永良部島では、5月29日09時59分に火砕流を伴う爆発的噴火が発生しました。この噴火はマグマ水蒸気噴火であったと考えられます。今後も同程度の噴火が発生する可能性があります。

口永良部島では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生しました。噴煙が火口縁上9000メートル以上まで上がって東南東に流れ、大きな噴石が火口周辺に飛散しました。火砕流が北西側（向江浜地区）の海岸まで達しました。今回の噴火は前回の2014年8月3日の噴火を超える規模と考えられます。

この噴火に伴い、火山性微動と山頂側が沈降する傾斜変化が観測されました。

火山灰には新しいマグマと考えられる溶岩片が含まれることから、今回の噴火はマグマ水蒸気噴火であったと考えられます。

2014年8月3日の噴火以降、火山活動が活発化した状況が継続し、特に火山ガスや地殻変動観測から、爆発力が強い噴火や規模の大きな噴火に移行する可能性も予想された中で、5月23日に口永良部島で震度3を観測する地震が直下で発生し、その後、今回の爆発的な噴火が発生しました。

今後も今回と同程度の規模の噴火の可能性があるため、厳重な警戒が必要です。

今後の火山活動の推移を把握するために、地震、地殻変動、火山ガス等について、注意深く監視するため観測を強化する必要があります。

噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

【本件に関する問合せ先】気象庁地震火山部火山課

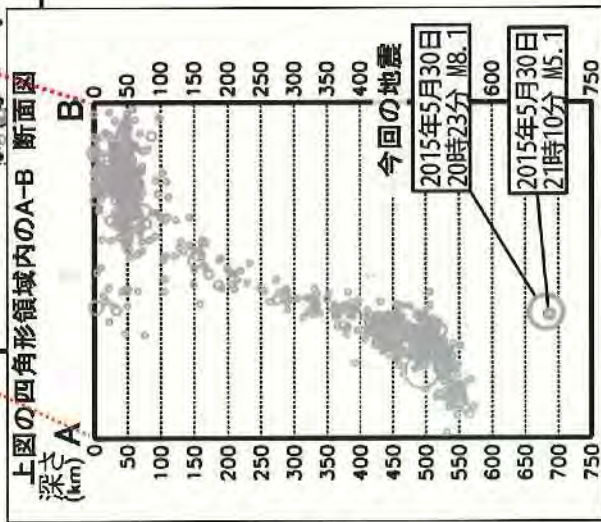
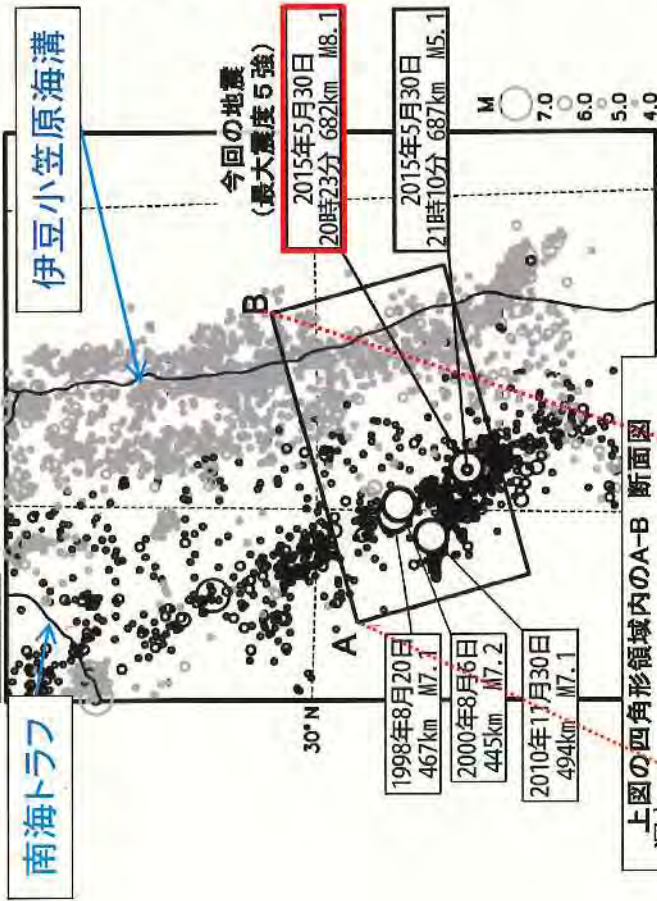
電話：03-3212-8341（内線）4538

平成27年5月30日20時24分頃の小笠原諸島西方沖の地震

1 気象庁

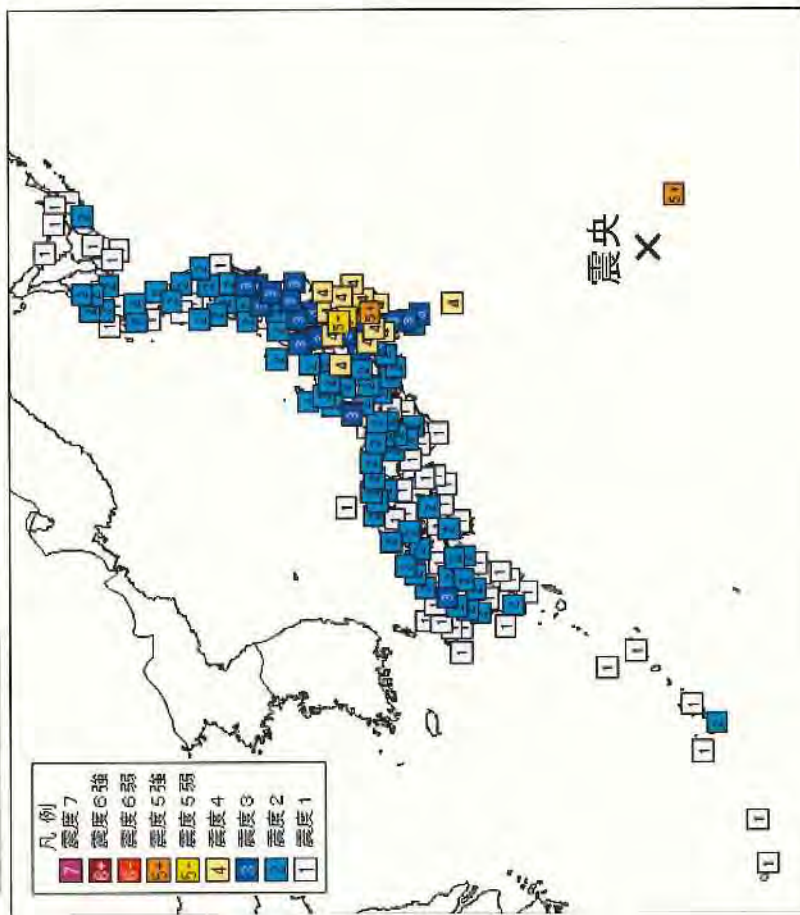
平成27年6月1日
気象庁

震央分布図
(1997年10月1日～2015年5月30日24時00分、深さ0～750km、M4.0以上
100kmより深い地震を濃く表示)



- ・マグニチュード8.1、最大震度5強
- ・太平洋プレート内(深さ682km)で発生
- ・全道府県で震度1以上を観測(観測史上初)

各地域の震度分布



口永良部島噴火に関する海上保安庁の対応について

1. 対応概要

海上保安庁では、発災後直ちに、本庁及び第十管区海上保安本部に対策本部をそれぞれ設置するとともに、巡視船による住民等の避難等を実施した。

主な対応状況は以下のとおり。

【5月29日】

- ・ 10時34分及び14時49分、航行警報発出
- ・ 11時23分、固定翼機が現場付近に到着、噴煙状況等現場の情報収集を実施
- ・ 11時50分、測量船「拓洋」が本村港沖に到着、要救助者の搬送準備フェリー「太陽」の入港支援を実施
- ・ 11時58分、回転翼機が番屋ヶ峰避難所上空に到着、機動救難士2名が降下、傷病者を発見し、県防災ヘリコプターへ引継ぎ
- ・ 12時32分、巡視船「さつま」が湯向港沖に到着、要救助者6名及び犬1匹を搭載艇にて救助した後、15時40分から2回に分けて回転翼機により巡視船「さつま」から屋久島空港まで緊急輸送
- ・ 13時10分、特殊救難隊が鹿児島航空基地に前進配備完了
- ・ 14時10分、巡視船「とから」が本村港沖に到着、島周辺の警戒監視を開始
- ・ 14時45分、測量船「拓洋」が本村港に避難してきた島民に対し、おにぎり（約50人分）やお茶を提供
- ・ 15時00分、測量船「明洋」が湯向港沖に到着
- ・ 15時42分、フェリー「太陽」が出港、巡視船「とから」が伴走警戒を実施
- ・ 16時00分、巡視船「こしき」が本村港沖に到着（機動救難士5名、消防士7名、警察官22名同乗）、警察官10名を本村港まで搬送
- ・ 16時50分、巡視船「おおすみ」が本村港沖に到着
- ・ 17時00分、警察にて島内に残留者がいないことを確認、巡視船「こしき」にて警察官等を鹿児島へ搬送
- ・ 17時40分、巡視船「くさかき」が日赤医師等7名及び救援物資を載せて屋久島に到着、搬送

【5月30日～】

- ・ 巡視船2隻体制にて島周辺の警戒監視を開始

【6月1日】

- ・ 巡視船「あかいし」「さつま」により、屋久島町による一時帰島への支援業務（伴走警戒、緊急時の離島支援）を実施
- ・ 巡視船「あかいし」により、気象庁による地震計設置作業への支援業務（緊急時の離島支援）を実施中

2. 対応勢力（延べ数）

- <船艇> 巡視船13隻、測量船2隻
- <航空機> 固定翼機1機、回転翼機3機
- <その他> 特殊救難隊6名、機動救難士11名

口永良部島における噴火に係る災害派遣について
(6月1日16時30分現在)

1. 災害派遣の概要

- (1) 要請日時 平成27年5月29日(金) 10時40分
 (2) 要請元 鹿児島県知事
 (3) 要請先 陸上自衛隊第8師団長(北熊本)
 (4) 要請の概要 航空機による避難支援・情報収集
 (5) 発生場所 鹿児島県くちのえらぶしま口永良部島

2. 災害派遣までの経緯

平成27年5月29日(金)、口永良部島で噴火が発生、同日10時40分、鹿児島県知事から陸上自衛隊第8師団長に対し、航空機による避難支援・情報収集に係る災害派遣要請があった。

3. 防衛省・自衛隊の主な対応

- (1) 派遣部隊 陸自 第8師団司令部(北熊本)、第8通信大隊(北熊本)、第8偵察隊(北熊本)、第12普通科連隊(国分)、西部方面航空隊(高遊原、目達原)、第8飛行隊(高遊原)
 海自 第1航空群(鹿屋)、第22航空群(鹿屋)
 空自 第5航空団(新田原)、偵察航空隊(百里)
- (2) 活動規模 人員 約90名(延べ約430名) ※確認中
 車両 1両(延べ4両)
 航空機 12機(延べ43機)

(3) 主な対応状況

【29日(金)】

- 10時07分 運用企画局に防衛省災害対策室を設置(長:運用企画局長)
 10時15分 第5航空団のF-4×2機が基地を離陸。以降、情報収集活動を実施。
 10時20分 防衛大臣指示。
 ○自治体及び関係省庁と緊密に連携し、災害派遣活動に万全を期すこと
 ○被害の状況に応じ、適切な対応を実施すること。
 10時30分 第12普通科連隊のLO(人員4名、車両1両)が駐屯地を出発。以降、鹿児島県庁で情報収集活動実施。
 10時40分 鹿児島県知事から陸上自衛隊第8師団長に対して**災害派遣要請**。
 10時48分 第1航空群のP-3C×1機が基地を離陸。以降、情報収集活動

- 実施。
- 11時12分 西部方面航空隊のUH-60×1機、UH-1×2機が駐屯地を離陸。
- 以降、情報収集活動実施。(活動後、鹿屋で待機。)
- 11時15分 第8飛行隊のUH-60×1機が駐屯地を離陸。屋久島町役場へ12普通科連隊LO2名を輸送。12時43分現地到着、避難支援活動等を実施する第8師団司令部・第8通信大隊・第8偵察隊所属の人員6名を輸送後、高遊原へ帰投。
- 11時23分 第22航空群のUH-60×2機が基地を離陸(11時45分、47分現地到着)。以降、情報収集活動実施。
- 12時18分 第8飛行隊のCH-47×1機が駐屯地を離陸(14時03分種子島到着)。以降、避難支援実施準備のため、種子島で待機後、高遊原へ帰投。
- 12時30分 偵察航空隊のRF-4×2機が基地を離陸。以降、情報収集活動実施。
- 12時52分 第8飛行隊のCH-47×1機が駐屯地を離陸(13時43分国分到着)。以降、避難支援実施準備のため、国分で待機後、高遊原へ帰投。

○ 第12普通科連隊のファスト・フォース約20名が国分で待機。

※ (航空関係要員約80名、LO等約10名、地上要員約35名)

【30日(土)】

- 第12普通科連隊のLO(人員4名、車両1両)が鹿児島県庁で情報収集活動実施。
- 第12普通科連隊のLO(人員2名)が屋久島役場で情報収集活動実施。
- 西部方面航空隊のCH-47×3機が高遊原で待機。
- 西部方面航空隊のUH-1×2機、UH-60×1機が鹿屋で待機。
- 第12普通科連隊のファスト・フォース約20名が国分で待機。
- 第22航空群のUH-60×3機が鹿屋で待機。
- ※ (航空関係要員約60名、LO等約20名、地上要員約35名)

【31日(日)】

- 第12普通科連隊のLO(人員4名、車両1両)が鹿児島県庁で情報収集活動実施。
- 第12普通科連隊のLO(人員2名)が屋久島町役場で情報収集活動実施。
- 西部方面航空隊のCH-47×3機が高遊原で待機。
- 西部方面航空隊のUH-1×2機、UH-60×1機が鹿屋で待機。
- 第12普通科連隊のファスト・フォース約20名が国分で待機。
- 第22航空群のUH-60×3機が鹿屋で待機。
- ※ (航空関係要員約60名、LO等約20名、地上要員約20名)

【6月1日(月)】

- 第12普通科連隊のLO(人員2名)が屋久島町役場で情報収集活動を継続。
- 07時11分 西部方面航空隊のUH-60×1機が現地上空で緊急避難支援等実施のため駐屯地を離陸。

- 07時34分 西部方面航空隊のUH-60×1機が現地上空で緊急避難支援等のため駐屯地を離陸。
- 07時40分 西部方面航空隊のCH-47×1機が屋久島で緊急避難支援等のため駐屯地を離陸。
- 07時54分 西部方面航空隊のCH-47×1機が屋久島で緊急避難支援等のため駐屯地を離陸。
- 08時52分 西部方面航空隊のUH-1（ヘリ映伝機）×1機、UH-60×1機が情報収集活動実施のため基地を離陸。
- 10時05分 第8飛行隊のLO（人員1名）が情報収集のため屋久島町役場へ到着。
- 10時12分 第8飛行隊のUH-60×1機が鹿児島県知事による上空視察支援のため駐屯地を離陸。
- 13時25分 第8飛行隊のCH-47×1機が屋久島町長による上空視察支援のため屋久島空港を離陸。
- 西部方面航空隊のUH-1（ヘリ映伝機）×1機が鹿屋で待機。
- 第12普通科連隊のファスト・フォース約20名が国分で待機。
- 第22航空群のUH-60×3機が鹿屋で待機。
- ※ 全体の要員数は確認中

4. 政府調査団の支援

【29日（金）】

- 14時15分 西部方面航空隊のUH-60×1機が鹿児島空港を離陸。以降、政府調査団（4名）による上空視察の支援を実施。

【30日（土）】

- 07時00分 西部方面航空隊のUH-60×1機が鹿児島県マリポートかごしまを離陸。以降、政府調査団（赤澤副大臣以下6名）による上空視察の支援を実施。

5. その他の支援

【6月1日（月）】

- 気象庁からの要請を受け官庁間協力で、「ソーラーパネル式地震計」設置のための器材及び人員を輸送支援を実施中（鹿児島～薩摩硫黄島～口永良部島（往復））。

くちのえらぶじま

口永良部島の火山活動についての国土交通省の対応状況

(6月1日14時時点)

1. 噴火の概要等

○発生日時：平成27年5月29日9時59分

火砕流が噴火口から南西側および北西側の海岸に到達（噴火直後の噴煙高度は火口上9000m以上）。

○31日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測では、火砕流の流下が確認された山麓や海岸付近の状況に特段の変化は認められなかった。

○1日夜は、曇りで雨の降る所がある見込み。2日からは、前線や湿った気流の影響で雨の降る日が多い見込み。

2. 島民の避難状況（島民等138名が屋久島に避難完了）

○番屋ヶ峰から3名が鹿児島県防災ヘリにより搬送済み。（火傷1名、心臓病1名、付添者1名）

○湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に収容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。

○番屋ヶ峰の避難者125名を乗せたフェリー「太陽」が屋久島宮之浦港到着

○そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。

○29日17:32時点で島内の所在者なしを確認。

（消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。）

○屋久島の3カ所の避難所は次の通り。

- ・宮之浦老人憩いの家
- ・宮之浦公民館
- ・屋久島町福祉センター

3. 島民の一時帰島について

- ・口永良部島内の防火・防犯対策等のため、本村地区21名、湯向地区6名の計27名が漁船3隻により、1日8時30分から一時帰島し、無事帰還。
- ・自衛隊・国交省・鹿児島県警のヘリ、海上保安庁巡視船により、監視等を実施。

4. 国土交通省の対応状況

○国土交通省職員のパ遣状況

- ・海上保安庁：屋久島町2名、鹿児島県庁0名
- ・気象庁：屋久島町2名、鹿児島県庁1名
- ・九州地整・九州運輸リエゾン：屋久島町3名、鹿児島県庁4名
- ・九州地整 TEC-FORCE：12名（ヘリ調査、監視カメラ設置等）

○防災ヘリによる調査状況

5月29日～6月1日 口永良部島上空より調査を実施（九州地整 はるかぜ号（5月29日～6月1日）、四国・中国地整 愛らんど号（5月31日））

○海上保安庁の対応

- 5月29日
- ・機動救難士が番屋ヶ峰避難所の負傷者2名を救助
 - ・測量船が本村港沖でフェリー太陽の入港支援
 - ・巡視船及びヘリで湯向の島民6名を屋久島に搬送
 - ・巡視船で救助支援の関係機関職員を口永良部島に搬送
- 5月30日以降
- ・巡視船2隻を口永良部島周辺海域に配備中

○気象庁の対応

6月1日 観測強化の一環として、地震計を増設予定

5. 初動対応・体制

5月29日 10:07 非常体制（気象庁）

10:08 非常体制（国土交通省、国土地理院、九州地方整備局、九州運輸局）

11:50 第1回対策本部会議（大臣指示を発出）

14:50 第2回対策本部会議

5月30日 10:30 第3回対策本部会議

うえの政務官が現地入りし、鹿児島県知事、屋久島町長と意見交換等を実施

口永良部島の火山活動について(第7報)

1. 本省及び地方支分部局の体制について

国土交通本省	5月29日	10:08	非常体制「当該災害に関する対策本部設置」				
九州地方整備局	5月29日	10:08	非常体制	九州運輸局	5月29日	10:08	非常体制
国土地理院	5月29日	10:08	非常体制	気象庁本庁	5月29日	10:07	非常体制
国土技術政策総合研究所	5月29日	10:08	非常体制				

2. 噴火の概要

○新岳では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生した。

○この噴火により、噴煙が火口上9,000m以上まで上がった。また、火砕流が発生し、新岳火口の南西側から北西側(向江浜地区)方向の海岸まで達した。

○5月31日に気象庁機動調査班(JMA-MOT)が実施した上空からの観測では、火砕流の流下が確認された山麓や海岸付近の状況に特段の変化は認められなかった。

3. 気象の見通し

○今日1日夜は、曇りで雨の降る所がある見込み。

○明日2日からは、前線や湿った気流の影響で、雨の降る日が多い見込み。

4. 島民の避難状況(島民等138名が屋久島に避難完了)

○番屋ヶ峰から3名が防災ヘリにより搬送済み。(火傷1名、心臓病1名、付添者1名)

○湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に收容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。

○番屋ヶ峰の避難者125名乗せたフェリー太陽が屋久島宮之浦港へ5/29 17:30に到着し、5/29 18:45ごろに乗船者全員が無事に上陸

○そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。

○29日17:32時点で島内の所在者なしを確認。(消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。)

○屋久島の3カ所の避難所は次の通り。

- ・宮之浦老人憩いの家
- ・宮之浦公民館
- ・屋久島町福祉センター

5. 島民の一時帰島について

○口永良部島内の防火・防犯対策等のため、本村地区21名、湯向地区6名の計27名が漁船3隻により、6月1日8時30分から一時帰島。

2地区(本村地区・湯向地区)27名全員の現地作業が終了し、全員無事一湊港(屋久島町)へ帰港。

○自衛隊・国交省・鹿児島県警のヘリ、海上保安庁巡視船により、監視等を実施。

6. 国土交通省の対応

- ・5/29 11:50 第1回対策本部会議開催(大臣指示)
- ・5/29 14:50 第2回対策本部会議開催
- ・5/30 10:30 第3回対策本部会議開催
- ・5/30 12:15 うえの政務官が現地入りし鹿児島県知事と意見交換等を実施
 - ・屋久島町長と電話会談
 - ・鹿児島県知事と意見交換
 - ・第10管区海上保安本部における激励

※天候の悪化により、防災ヘリによる上空からの調査と屋久島町長との直接の会談ができなかった

〇リエゾン(情報連絡員)派遣

- ・海上保安庁より1県1町へ、のべ9人・日派遣(5/29～6/1)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2	0	0		5
屋久島町	2	0	0	2		4
合計	5	2	0	2	0	9

- ・気象庁より1県1町へ、のべ12人・日派遣(5/29～6/1)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	1	0	1		4
屋久島町	2	2	2	2		8
合計	4	3	2	3	0	12

- ・九州地方整備局より1県1町へ、のべ21人・日派遣(5/29～6/1)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2	2	2		9
屋久島町	3	3	3	3		12
合計	6	5	5	5	0	21

- ・九州運輸局より1県へ、のべ8人・日派遣(5/29～6/1)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	2	2	2		8
合計	2	2	2	2	0	8

〇OTEC-FORCEの派遣

- ・九州地方整備局より、防災ヘリコプターによる上空からの被災状況調査、映像配信、海煌による資機材運搬、情報収集のため、のべ41人・日派遣(5/29～6/1)。

(単位:人)

派遣元	派遣内容	5			6		合計
		29	30	31	1	2	
九州地整	被災状況調査(ヘリ)	4	3	3	5		15
	映像配信	2	2	2	2		8
	資機材運搬	2	2	0	0		4
	情報収集	0	1	1	1		3
	現地活動支援	0	3	4	4		11
合計		8	11	10	12	0	41

○防災ヘリコプターによる状況調査

- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/29)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、火山灰及び火砕流の分布状況について確認。
- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/30)。
- 九州地整防災ヘリコプター及び四国・中国地整局防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/31)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、降灰状況、土石流危険渓流等について確認。降雨後の顕著な土砂移動は確認されなかった。なお、天候不良により、火口周辺及び渓流上流部は視認できなかった。
- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(6/1)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、降灰状況、土石流危険渓流について確認。

○災害対策用機械等出動状況

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	火山監視	Ku-SAT	1	稼働中	5/29～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	情報収集車	1	待機中	5/30～
九州地整	屋久島町小瀬田	現地支援	待機支援車	1	待機中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	ヘリ映像中継	可搬ヘリテレ	1	稼働中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	ヘリ映像中継	Ku-SAT	1	稼働中	5/30～

○調査観測兼清掃船「海煌(かいこう)」出港

九州本島との資材運搬等の輸送に備え、熊本港湾・空港整備事務所の「海煌」が八代港を出港

- 5/29 13:30 八代港出港
 - 5/30 00:45 鹿児島港入港
 - 5/31 08:50 鹿児島港出港(八代港向け回航)
 - 5/31 19:30 八代港帰還
- 乗船可能人員 12名(乗務員除く)

7. 気象庁の対応

- 5月29日10:07 噴火警報(居住地域)を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)から5(避難)に引き上げ
- 5月29日10:40 火山の状況に関する解説情報を発表
- 5月29日11:10 気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 5月29日11:30 記者会見
- 5月29日13:30、18:00 気象庁災害対策本部会議
- 5月29日16:00 火山の状況に関する解説情報の定期的な発表を開始(毎日10時、16時)
- 5月29日 復旧担当者・被災者向け気象支援資料の提供を開始(毎日5時、11時、17時頃更新)
- 5月29日 気象庁ホームページに口永良部島噴火の関連情報ポータルサイトを開設
- 5月30日06:40 鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 5月31日13:30 気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 6月1日 口永良部島に地震計を増設する予定、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施予定

8. 海上保安庁の対応

5月29日

■巡視船・測量船

- 「拓洋」が本村港沖に到着(1150)。要救助者搬送準備・フェリー太陽の入港支援を実施
- 「さつま」が湯向港沖に到着(1232)。搭載艇により島民6名を「さつま」に救助後、ヘリで屋久島空港まで搬送
- 「とから」が、フェリー太陽の伴走警戒を実施(1542)
- 「こしき」が本村港沖到着(1600)。鹿児島から搬送した「警察22名、消防7名」のうち「警察10名」を口永良部島に搬送
- 「くさかき」が鹿児島から「日赤医師等7名及び救援物資」を屋久島に搬送(1740)

■航空機等

- ヘリが番屋ヶ峰避難所上空に到着(1158)。機動救難士が避難所に降下し傷病者2名(火傷1名、心臓病1名)を救助、県防災ヘリへ引継
- 「特殊救難隊(1個隊)、関西航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)、福岡航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)」を鹿児島基地に前進配備

5月30日～

- 巡視船2隻を口永良部島周辺海域に配備中

6月1日

- 「あかいし」及び「さつま」により、一時帰島への支援業務を実施

9. 国土地理院の対応

- ・過去の空中写真および災害対策用図を関係機関へ提供(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を撮影(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真をホームページで公開(5月30日)
- ・人工衛星(だいち2号)データを用いて口永良部島の地表の状態の変化を面的に把握しホームページで公開(5月30日) URL: <http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h27-kuchinoerabu-index.html>

10. 所管施設等の状況

○道路関係

- 本村と湯向を結ぶ町道は噴石散乱のため通行不能との情報
- 本村と番屋ヶ峰を結ぶ町道は通行可能との情報

○河川関係、ダム関係、公営住宅関係、公園関係、宅地関係、下水道関係、官庁施設関係、鉄道関係、自動車関係、航空関係、海事関係、港湾関係、物流関係、観光関係等

- ・現時点で被害情報なし

問合先:水管理・国土保全局防災課災害対策室 池本
代表:03-5253-8111 内線35-822
直通:03-5253-8461

口永良部島の噴火状況等について

※これは速報値であり、数値等は今後も変わることがある。

※下線部は、前回からの変更箇所。

平成 27 年 6 月 1 日

16 時 00 分 現在

内 閣 府

1. 火山活動等の概要（気象庁情報：6月1日 10:00 現在）

(1) 火山活動の状況（噴火警戒レベル 5）

【5月29日（金）】

- ・ 09:59 新岳で噴火
- ・ 10:07 噴火警戒レベル 5（避難）発表（気象庁）
新岳では、本日（29日）09時59分に爆発的噴火が発生。
この噴火に伴い、火砕流が発生し、海岸まで達した。
- ・ 10:40 「臨時」の火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）
口永良部島新岳では、本日（29日）09時59分に爆発的噴火が発生し、火砕流が新岳の南西側から北西側（向江浜地区）にかけての海岸まで達したのを確認した。噴煙は火口縁上 9,000メートル以上まで上がり、火口周辺に噴石が飛散しているのを確認した。
- ・ 16:00 火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）
噴火は現在も継続しており、噴煙が火口縁上 200メートルまで上がり、南西に流れている。
- ・ 21:50 口永良部島の火山活動解説資料発表（気象庁）
噴火は現在も継続しており、17時30分の噴火では、噴煙が火口縁上 1,200メートルまで上がっている。

【5月30日（土）】

- ・ 10:00 火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）
爆発的噴火の発生後も噴火は継続しており、本日（30日）に入ってからには噴煙が火口縁上概ね 200メートルで経過している。
- ・ 10:50 噴火は停止した模様。天候不良のため噴煙状況不明。

【5月31日（日）】

- ・ 10:00 火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）
- ・ 16:00 火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）

【6月1日（月）】

- ・ 10:00 火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）
5月31日16時以降に白色の噴煙が最大で火口縁上 200mまであがっているのを確認。

(2) 対象市町村等

- ・鹿児島県屋久島町

(3) 防災上の警戒事項

- ・火砕流の流下が切迫している居住地域では嚴重な警戒（避難等の対応）が必要。

(4) 降灰予報（定時）（気象庁情報：6月1日10:00現在）

- ・現在、口永良部島は噴火警戒レベル5（避難）。1日9時から1日12時までに噴火が発生した場合には、火口から東方向に、1日12時から2日3時までに噴火が発生した場合には、火口から北東方向に、降灰及び小さな噴石の落下が予想される。

(5) 気象の見通し（気象庁情報：6月1日09:45現在）

- ・今日1日は、曇りで昼過ぎから夕方は晴れる見込み。
- ・明日2日からは、前線や湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多くなる見込み。

2. 被害状況（消防庁情報：6月1日9:30現在）

(1) 人的被害

- ・全島民無事を確認
- ・前額部部分熱傷 1名（自力歩行可能）
- ・体調不良 1名

※上記2名については、鹿児島県防災ヘリ・熊毛地区消防組合消防本部との連携により、屋久島町内の病院へ搬送

(2) 物的被害

- ・確認中

(3) その他被害

- ・確認中

3. 住民の避難

(1) 避難指示等の状況（消防庁情報：6月1日9:30現在）

10:15 屋久島町：口永良部全島に対し、島外への避難勧告

10:20 屋久島町：避難指示へ切り替え

(2) 住民等の島からの避難（鹿児島県災害対策本部とりまとめ：5月30日7:00現在）

- ・噴火時島滞在者 137名（島民118名、旅行者等19名）は全員避難済

（参考）避難の内訳

- ・町営フェリー乗船者：125名（うち島民106名、旅行者等19名）
- ・鹿児島県防災ヘリによる搬送：3名
- ・海上保安庁巡視船「さつま」による搬送：6名
- ・それぞれの漁船で避難：3名

※上記のほか、噴火時に島外に所在していた島民1名が避難所に滞在中
当該者を含めると避難者は138名

(3) 避難先の状況(鹿児島県屋久島町災害対策本部とりまとめ:5月31日18:00現在)

・屋久島島内に3ヶ所の避難所を開設【合計40世帯64名が避難(18:00現在)】

- ①屋久島福祉センター「縄文の苑」(14世帯24名)※噴火時、島外にいた島民1名を含む
- ②宮之浦公民館(11世帯15名)
- ③宮之浦老人憩の家(15世帯25名)

・その他の避難者については、屋久島の親戚や知人宅、ホテル等で避難。

(参考) 避難所の状況

- ・各避難所に町職員を4名ずつ配置し、炊き出しを実施。
- ・避難所近くのホテルでお風呂の提供。
- ・洋式トイレの確保(2施設は整備済、残り1施設は洋式仮設トイレ搬入中)
- ・県から保健師を2名派遣。避難所3か所を巡回し避難者の健康状態を把握。

4. その他の被害状況等

(1) ライフラインの状況

ア 電力(経済産業省情報:6月1日10:00現在)

- ・現時点で発電支障・供給支障ともになし。(ディーゼル発電所200kW×1台、100kW×1台の合計300kW。発電所の立地場所は、中心地の本村地区の近く。)
- ・委託運転員(計4名)は、島外に避難済み。
- ・発電所は、100kW1台を自動運転中であり、燃料も約80日の運転継続が可能なように作業を行った。

イ ガス(経済産業省情報:6月1日10:00現在)

- ・LPガス:販売所が1カ所有り(消費者戸数80戸弱)。
全島民が避難しているため、被害情報については、現時点では不明。
- ・都市ガス(一般ガス、簡易ガス):都市ガス設備はなし。

ウ 水道(厚生労働省情報:6月1日9:50現在)

- ・断水状況は不明

エ 通信・放送(総務省情報:6月1日9:30現在)

- ・被害なし

(2) 道路関係(国土交通省情報:6月1日7:00現在)

- ・本村と湯向を結ぶ町道は噴石散乱のため通行不能との情報
- ・本村と番屋ヶ峰を結ぶ町道は通行可能との情報

(3) 原子力施設関係(原子力規制庁情報:5月29日10:35現在)

- ・川内原子力発電所(口之永良部島から約150km)は異常なし。

(4) 農林水産関係（農林水産省情報：6月1日10:00現在）

- ・被害状況等について調査中。

(5) その他の状況

- ・現時点で被害情報なし

5. 政府の主な対応

(1) 官邸の対応

- ・官邸対策室設置（5月29日10:07）
- ・総理会見（5月29日11:45）

(2) 総理指示

- ・以下のとおり総理指示が発せられた（5月29日10:15）

- 1 早急な被害状況の把握
- 2 自治体との緊密な連携による避難等の安全確保措置の徹底
- 3 適時的確な情報の提供

(3) 緊急参集チーム

- ・緊急参集チーム協議開始（5月29日10:37）

〈〈緊急参集チーム確認事項〉〉

- 1 地方自治体、関係機関等との連携を密にし、口永良部島の火山活動や被害状況を的確に把握するとともに、住民の安全を第一として、政府一体となった救援救助活動、避難支援等に全力を尽くす。
- 2 被害の状況に応じ、緊急消防援助隊、警察広域援助隊、自衛隊の災害派遣部隊、海上保安庁の救援救助部隊、災害派遣医療チーム(DMAT)等による被災地への広域応援を行い、災害応急対策に万全を期す。
- 3 火山活動について、引き続き、国や関係機関が一体となって厳重な観測・監視・分析を行い、住民や地方自治体、関係機関に対する的確な情報提供を行う。

(4) 災害派遣要請

要請日時：平成27年5月29日（金）10:40

要請元：鹿児島県知事

要請先：陸上自衛隊第8師団長（北熊本）

要請の概要：航空機による避難支援・情報収集

発生場所：鹿児島県口永良部島

〈〈派遣規模〉〉（6月1日09:30現在）※本日6月1日の人員等は確認中

人員 約100名（延べ約440名）

車両 1両（延べ4両）

航空機 10機（延べ50機）

(5) 政府調査団の派遣等

- ・内閣府情報先遣チームを鹿児島県屋久島町役場へ派遣（5月29日11:38）
- ・赤澤内閣府副大臣を団長とする政府調査団を鹿児島県庁へ派遣（5月29日11:38）
- ・赤澤内閣府副大臣を団長とする政府調査団が自衛隊ヘリにて口永良部島上空視察を行うとともに、屋久島町役場での意見交換及び避難所訪問を実施（5月30日午前）

(6) 関係省庁災害対策会議

- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）、松本内閣府大臣政務官出席のもと、関係省庁災害対策会議を開催し、佐々木鹿児島県副知事とテレビ会議を行うとともに、今後の火山活動の見通し、被害状況及び各省庁の対応状況について情報共有を行った。（5月29日11:00）
- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）、松本内閣府大臣政務官、藤井火山噴火予知連絡会会長出席のもと、第2回関係省庁災害対策会議を開催し、佐々木鹿児島県副知事とテレビ会議を行うとともに、今後の火山活動の見通し、被害状況及び各省庁の対応状況について情報共有を行った。（5月29日16:00）
- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）、赤澤内閣府副大臣、松本内閣府大臣政務官出席のもと、第3回関係省庁災害対策会議を開催し、伊藤鹿児島県知事及び荒木屋久島町長とテレビ会議を行うとともに、赤澤内閣府副大臣による政府調査団調査報告を実施。また、今後の火山活動の見通し、被害状況及び各省庁の対応状況について情報共有を行うとともに、今後の対応等について確認を行った。（5月30日17:00）

(7) 政府現地連絡調整室

- ・口永良部島の噴火が発生している鹿児島県屋久島町において、国と被災地方公共団体が一体となって、現地での災害応急対策に係る調整を実施するため、鹿児島県屋久島町役場に政府現地連絡調整室（室長：内閣府政策統括官（防災担当）付参事官）を設置（5月29日16:30）。

(8) 災害救助法の適用

- ・平成27年5月29日の口永良部島（新岳）噴火により、多数の者が生命又は身体に危害を受け、又は受けるおそれが生じており、継続的に救助を必要としているため。
 - ・鹿児島県：熊毛郡屋久島町（くまげぐんやくしまちょう）（5月29日適用）

6. 各府省庁の主な対応

(1) 内閣府の対応

- ・情報対策室設置（5月23日10:45）
- ・災害対策室へ改組（5月29日10:07）
- ・内閣府防災ツイッター等により、国民への情報発信を実施（5月29日10:24、10:42、15:12、5月30日00:02）
- ・被災県に対し、避難所の生活環境整備（プライバシーの確保、入浴の機会確保、洋式仮設トイレの設置等）、食品の給与、要配慮者のための宿泊施設等の協力も得た福祉避難所の設置、応急仮設住宅の設置等について十分配慮するよう要請（5月29

日 12:30)

- ・被災県に対し、住家の被害状況調査の適切な実施、被災者生活再建支援制度の適用又はそれに準じる県独自支援措置の活用等について、被災者支援に万全の対応を行うよう要請(5月29日12:30)

(2) 警察庁の対応

【5月29日(金)】

- ・警察庁及び鹿児島県警察では、関連情報の収集等を実施
- ・災害警備本部を設置(5月29日10:07)
- ・機動隊10名、管区機動隊12名が海保巡視船にて12:12に出発し、15:54に本村港近海に到着。順次小型船で5人が本村港へ上陸し、避難区域の残留者確認等を実施。
- ・屋久島署員1名が町営船舶により11:50に出発し、13:55に到着。順次避難区域の確認、避難住民の誘導等に従事。
- ・鹿児島県警ヘリ(屋久島署員3名搭乗)が13:50に到着し。順次避難区域の確認、避難住民の誘導等に従事。
- ・屋久島署員3名が民間漁船により12:40に出発し、13:50に到着。順次避難区域の確認、避難住民の誘導を実施。
- ・鹿児島県警警備艇にて管区機動隊5名通信2名が11:40に出発し、14:10に到着。順次避難区域の確認、避難住民の誘導等を実施。
- ・機動隊員等の避難区域確認の結果、湯向地区には残留者なしを確認
- ・鹿児島県警ヘリが11:25頃現地に到着し、情報収集を実施。
- ・11:00に、九州管区内広域緊急援助隊に待機指示(15:30解除)
- ・各県警察ヘリが順次フライト
- ・島内に残留している警察官は、避難区域の残留者の確認を実施。
- ・消防、町役場、県職員が離島(16:30)。
- ・すべての警察官が離島し、島内に所在する者はなし(17:32)。

【5月30日(土)】

- ・鹿児島県警のヘリテレ映像を官邸等に送信(9:40)
- ・本部地域課員4名が警備艇による海上からの情報収集、警戒等を実施。
- ・鹿児島県機動警察通信隊員5名が、屋久島に設置した臨時固定カメラの映像を官邸等に送信。
- ・屋久島署員及び管区機動隊員9名が、3カ所の避難所において警戒活動、避難住民の困りごと相談等の活動を実施。

【5月31日(日)】

- ・警備艇による海上からの情報収集、警戒等を実施
- ・屋久島署員及び管区機動隊員9名及び第二機動隊特別小隊2名(女性警察官)が3カ所の避難所において、警戒活動、避難住民の困りごと相談等の活動を実施。

【6月1日（月）】

- ・住民等の一時入島に伴い、県警ヘリによる上空からの警戒等を実施。
- ・警備艇による海上からの情報収集、警戒等を実施。
- ・屋久島署員及び管区機動隊員9名及び第二機動隊特別小隊2名（女性警察官）が3カ所の避難所において、警戒活動、避難住民の困りごと相談等の活動を実施。

(3) 消防庁の対応

- ・災害対策本部を設置（5月29日10:07）
- ・福岡県、熊本県、大分県、宮崎県の緊急消防援助隊に対し、人命救助事案の発生に備え、準備を依頼（5月29日10:20）。
- ・鹿児島県知事からの出動要請を受け、消防庁長官から高知県、宮崎県、福岡市消防局3機の消防防災ヘリ、福岡市消防局（指揮支援部隊）に対して出動の求めを実施（5月29日10:35）
- ・鹿児島県に消防庁職員2名の派遣を決定（5月29日10:40）
- ・高知県、宮崎県の消防防災ヘリが出動（5月29日13:30現場付近到着）
- ・高知県消防防災ヘリ（消防庁ヘリ5号機）が現場付近に到着し、ヘリサットにより映像配信（5月29日14:00）
- ・福岡市消防局（指揮支援部隊）が鹿児島県庁に到着（5月29日14:30頃）
- ・宮崎県消防防災ヘリが現場上空に到着し、避難状況を確認（5月29日15:15）
→高知県、宮崎県、福岡市消防局の消防防災ヘリ3機は、避難状況等を確認した後、各派遣元にて待機

<<消防機関の活動>>

① 鹿児島県内の消防機関の活動

- ・鹿児島市消防局の先遣隊7名（人員のみ）が、海上保安庁・巡視船「こしき」に乗船し出動（5月29日12:10）
- ・熊毛地区消防組合消防本部の救急隊が傷病者2名（鹿児島県防災ヘリが屋久島宮之浦運動場まで搬送した傷病者）を屋久島町内の病院に収容（5月29日13:08）
- ・熊毛地区消防組合消防本部14名が屋久島から口永良部島に渡り、島民の避難誘導等を実施中（5月29日14:00）
- ・熊毛地区消防組合消防本部14名が島内の川西地区、川東地区を検索し残留者なしを確認し撤収（5月29日16:30）
- ・鹿児島市消防局の先遣隊7名は、避難住民の傷病者の有無等を確認のうえ、帰港（5月29日17:45）

② 鹿児島県防災ヘリの活動

- ・鹿児島県防災ヘリ 情報収集活動実施（5月29日10:30）
- ・鹿児島県防災ヘリ 現場上空に到着し、情報収集活動中（5月29日11:25）
- ・鹿児島県防災ヘリが情報収集活動から任務を切り替え、口永良部ヘリポートから屋久島宮之浦運動場に対し、傷病者2名（火傷1名、体調不良1名）、付添1名

を搬送し、熊本地区消防組合消防本部の救急隊に引き継ぐ。(5月29日12:43)

→鹿児島県防災ヘリは枕崎ヘリポートにて待機

- ・鹿児島県防災ヘリが火山に関する情報収集活動を実施(火山防災の専門家が同乗)
(5月30日6:35)

③ 屋久島町消防団の活動

- ・屋久島町消防団団長、副団長2名が屋久島から口永良部島に渡り、口永良部分団17名と合流し、計20名で島民の避難誘導等を実施し、5月29日15:43に避難住民と共に町営フェリーで屋久島へ撤収

(4) 海上保安庁の対応

【5月29日(金)】

- ・航行警報発出(10:34及び14:49)
- ・固定翼機が現場付近に到着、噴煙状況等現場の情報収集を実施(11:23)
- ・測量船「拓洋」が本村港沖に到着、要救助者の搬送準備(11:50)
フェリー「太陽」の入港支援を実施
- ・回転翼機が番屋ヶ峰避難所上空に到着、機動救難士2名が降下、傷病者を発見し、県防災ヘリコプターへ引継ぎ(11:58)
- ・巡視船「さつま」が湯向港沖に到着(12:32)。要救助者6名及び犬1匹を搭載艇にて救助した後、2回に分けて回転翼機により巡視船「さつま」から屋久島空港まで緊急輸送(15:40)
- ・特殊救難隊が鹿児島航空基地に前進配備完了(13:10)
- ・巡視船「とから」が本村港沖に到着、島周辺の警戒監視を開始(14:10)
- ・測量船「拓洋」が本村港に避難してきた島民に対し、おにぎり(約50人分)やお茶を提供(14:45)
- ・測量船「明洋」が湯向港沖に到着(15:00)
- ・フェリー「太陽」が出港、巡視船「とから」が伴走警戒を実施(15:42)
- ・巡視船「こしき」が本村港沖に到着(機動救難士5名、消防士7名、警察官22名同乗)、警察官10名を本村港まで搬送(16:00)
- ・巡視船「おおすみ」が本村港沖に到着(16:50)
- ・警察にて島内に残留者がいないことを確認、巡視船「こしき」にて警察官等を鹿児島へ搬送(17:00)
- ・巡視船「くさかき」が日赤医師等7名及び救援物資を載せて屋久島に到着、搬送(17:40)

【5月30日(土)～】

- ・巡視船2隻体制にて島周辺の警戒監視を開始

【6月1日(月)】

- ・巡視船「あかいし」「さつま」により、屋久島町による一時入島への支援業務(伴走警戒、緊急時の離島支援)を実施中

<<対応勢力（延べ数）>>

船 艇：巡視船 13 隻、測量船 2 隻

航空機：固定翼機 1 機、回転翼機 3 機

その他：特殊救難隊 6 名、機動救難士 11 名

(5) 防衛省の対応

【5月29日（金）】

- ・ 第 5 航空団の F-4×2 機が基地を離陸。以降、情報収集活動を実施（10:15）。
- ・ 防衛大臣指示（10:20）。
 - ・ 自治体及び関係省庁と緊密に連携し、災害派遣活動に万全を期すこと
 - ・ 被害の状況に応じ、適切な対応を実施すること。
- ・ 第 12 普通科連隊の L0（人員 4 名、車両 1 両）が駐屯地を出発。
以降、情報収集活動実施（10:30）。
- ・ 鹿児島県知事から陸上自衛隊第 8 師団長に対して災害派遣要請（10:40）。
- ・ 第 1 航空群の P-3C×1 機が基地を離陸。以降、情報収集活動実施（10:48）。
- ・ 西部方面航空隊の UH-60×1 機、UH-1×2 機が駐屯地を離陸（11:12）。
以降、情報収集活動実施。（活動後、鹿屋で待機。）
- ・ 第 8 飛行隊の UH-60×1 機が駐屯地を離陸。屋久島町役場へ 12 普通科連隊 L02 名を
輸送（11:15）。12:43 現地到着、避難支援活動等を実施する第 8 師団司令部・第 8
通信大隊・第 8 偵察隊所属の人員 6 名を輸送後、高遊原へ帰投。
- ・ 11:23、第 22 航空群の UH-60×2 機が基地を離陸（11:45、11:47 現地到着）。
以降、情報収集活動実施。
- ・ 12:18、第 8 飛行隊の CH47×1 機が駐屯地を離陸（14:03 種子島到着）。
以降、避難支援実施準備のため、種子島で待機後、高遊原へ帰投。
- ・ 12:30、偵察航空隊の RF-4×2 機が基地を離陸。
以降、情報収集活動実施。
- ・ 12:52、第 8 飛行隊の CH-47×1 機が駐屯地を離陸（13:43 国分到着）。
以降、避難支援実施準備のため、国分で待機後、高遊原へ帰投。

【5月30日（土）】

- ・ 第 12 普通科連隊の L0（人員 4 名、車両 1 両）が鹿児島県庁で情報収集活動実施。
- ・ 第 12 普通科連隊の L0（人員 2 名）が屋久島役場で情報収集活動実施。
- ・ 西部方面航空隊の CH-47×3 機が高遊原で待機。
- ・ 西部方面航空隊の UH-1×2 機、UH-60×1 機が鹿屋で待機。
- ・ 第 12 普通科連隊のファスト・フォース約 20 名が国分で待機。
- ・ 第 22 航空群の UH-60×3 機が鹿屋で待機。
※（航空関係要員約 60 名、L0 等約 20 名、地上要員約 35 名）

【5月31日（日）】

- ・ 第 12 普通科連隊の L0（人員 4 名、車両 1 両）が鹿児島県庁で情報収集活動実施。
- ・ 第 12 普通科連隊の L0（人員 2 名）が屋久島町役場で情報収集活動実施。

- ・西部方面航空隊の CH-47×3 機が高遊原で待機。
- ・西部方面航空隊の UH-1×2 機、UH-60×1 機が鹿屋で待機。
- ・第 12 普通科連隊のファスト・フォース約 20 名が国分で待機。
- ・第 22 航空群の UH-60×3 機が鹿屋で待機。
- ※（航空関係要員約 60 名、L0 等約 20 名、地上要員約 20 名）

【6 月 1 日（月）】

- ・第 12 普通科連隊の L0（人員 2 名）が屋久島町役場で情報収集活動実施。
- ・西部方面航空隊の CH-47×2 機。屋久島にて島民入島支援等実施。
- ・西部方面航空隊の UH-60×2 機。現地上空にて島民入島支援等実施。
- ・西部方面航空隊の UH-1（ヘリ映伝機）×1 機、UH-60×1 機が情報収集活動実施
- ・西部方面航空隊の UH-1（ヘリ映伝機）×1 機が鹿屋で待機。
- ・第 12 普通科連隊のファスト・フォース約 20 名が国分で待機。
- ・第 22 航空群の UH-60×3 機が鹿屋で待機。
- ※ 全体の要員数は確認中

(6) 総務省の対応

- ・災害救助法の適用を受けた地域を告知先とする無線局免許人に対し、電波利用料債権の催促状及び督促状の送付を停止する措置を実施（5 月 29 日 鹿児島県熊毛郡屋久島町）。

<<通信事業者の対応>>

- ・災害用伝言サービスの提供開始（5 月 29 日 11:16 災害用伝言ダイヤル及び災害用伝言板、同日 11:19 災害用音声お届けサービス）

(7) 厚生労働省の対応

- ・医療施設の被害はなし（6 月 1 日 9:45 現在）

<<DMAT の救護活動の状況>>（6 月 1 日 9:45 現在）

- ・鹿児島県から DMAT に派遣要請等はない。なお、鹿児島市立病院の DMAT と鹿児島赤十字病院の救護班が自主待機中（5 月 29 日 12:30 現在）

<<日本赤十字社の救護活動の状況>>（6 月 1 日 9:45 現在）

- ・日赤救護班（医師 1 名、看護師 3 名、調整員 3 名）海保巡視船により、避難民健康チェック目的にて派遣（13:00 谷山港出港→18:04 屋久島宮之浦港到着）。現地での活動は、現地で災害対策本部と調整（5 月 29 日 19:45 現在）。
- ・5 月 30 日、避難所（縄文の苑）で医療相談窓口を設置（5 月 30 日 18:00 現在）
- ・5 月 31 日、医療ニーズが少なく、撤収（6 月 1 日 9:45 現在）

<<避難者の健康管理>>（6 月 1 日 9:45 現在）

- ・現時点で DPAT の出動予定はない。
- ・30 日午後から、屋久島保健所と屋久島町の保健師が、避難者の健康チェックのため 3 カ所の避難所を巡回実施中。

<<雇用促進住宅の提供>>（6 月 1 日 9:45 現在）

- ・鹿児島市内に 2 住宅（戸数内訳 11 戸、25 戸）所在。

※入居（提供）可能となる時期については、確認中。

＜＜医療保険関係＞＞（6月1日9:45現在）

- ・各都道府県等に対して、災害により被災した被保険者に係る保険料（税）・一部負担金の減免を行うことができる旨を周知（5月29日）

※平成25年5月に発出した事務連絡を再周知。

＜＜介護保険関係＞＞（6月1日9:45現在）

- ・鹿児島県（管内自治体も含む。）に対して、今般の災害により被災した要介護高齢者等について、保険者より特段の配慮（被災し利用者負担をすることが困難な者について、利用者負担の減免ができるなど）をお願いする旨を周知（5月29日）

※平成25年5月に発出した事務連絡を再周知。

＜＜避難生活支援ボランティアセンターの設置状況＞＞（6月1日9:45現在）

- ・屋久島町社協が、口永良部島から屋久島島内に避難されている方々を支援するため、「避難生活支援ボランティアセンター」を立ち上げ、避難所及びその後の避難生活における困り事相談や情報提供等を開始（5月30日）

(8) 文部科学省の対応

- ・災害情報連絡室設置（5月29日10:10）。
- ・鹿児島県教育委員会に対し、児童生徒等の安全確保と文教施設の被害状況の把握、二次災害防止を要請（5月25日）。
- ・引き続き、教育委員会等と連携を密にしつつ、被害状況等の収集に努める。

(9) 経済産業省の対応

- ・口永良部島（新岳）噴火に係る災害に関して鹿児島県熊毛郡屋久島町に災害救助法が適用されたことを踏まえ、被災中小企業・小規模事業者対策として、特別相談窓口の設置、災害復旧貸付の実施、セーフティネット保証4号の実施、既往債務の返済条件緩和等の対応、小規模企業共済災害時貸付の適用の措置を講じた。また、窓口における親身な対応や資金の円滑な融通等を要請する通知文書を、中小企業庁及び財務省の連名で、日本政策金融公庫、商工組合中央金庫及び全国信用保証協会連合会に対して発出した。（5月29日）
- ・口永良部島（新岳）噴火に係る災害を危機認定し、日本政策金融公庫から指定金融機関（日本政策投資銀行、商工組合中央金庫）を通じた危機対応業務の対象に追加した。財務省、中小企業庁及び農林水産省の連名で指定金融機関に対して同内容の通知文書を発出。（5月29日）
- ・口永良部島（新岳）噴火に係る災害及び被災地域（鹿児島県熊毛郡屋久島町）について、経済産業大臣が中小企業信用保険法第2条第5項第4号の規定に基づく指定を決定した。（5月29日）

(10) 農林水産省の対応

- ・口永良部島の噴火に関する総理指示（10:15）を省内に徹底（5月29日）
- ・鹿児島県災害対策本部に鹿児島地域センター一長を派遣し、情報を収集（5月30日）

- ・九州農政局生産部畜産課と鹿児島県農政部畜産課が連携して、家畜の飼育頭数を確認し、関係者の安全を第一とした上で県と緊密に連携して協力を実施（5月31日）

(11) 国土交通省の対応

<<対応体制>>

- ・国土交通本省非常体制（5月29日 10:08）
- ・第1回幹部会議開催（大臣指示）（5月29日 11:50）
- ・第2回対策本部会議開催（5月29日 14:50）
- ・第3回対策本部会議開催（5月30日 10:30）
- ・うへの政務官が現地入りし鹿児島県知事と面談等を実施（5月30日 12:15）

<<リエゾン（情報連絡要員）派遣>>

- ・海上保安庁より1県1町へ、のべ7人・日派遣（5月29～6月1日）。
- ・気象庁より1県1町へ、のべ11人・日派遣（5月29～6月1日）。
- ・九州地方整備局より1県1町へ、のべ21人・日派遣（5月29～6月1日）。
- ・九州運輸局より1県へ、のべ8人・日派遣（5月29～6月1日）。

<<TEC-FORCE の派遣>>

- ・九州地方整備局より、災害対策用ヘリコプターによる上空からの被災状況調査、映像配信、海煌による資機材運搬、情報収集のため、のべ37人・日派遣（5月29～6月1日）。

<<防災ヘリコプターによる状況調査>>

- ・九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施（5月29日）。TEC-FORCE 及び福岡管区气象台で、火山灰及び火砕流の分布状況について確認。
- ・九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施（5月30日）。
- ・九州地整防災ヘリコプター及び四国・中国地整局防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施（5月31日）。TEC-FORCE 及び福岡管区气象台で、降灰状況、土石流危険溪流等について確認。降雨後の顕著な土砂移動は確認されなかった。なお、天候不良により、火口周辺及び溪流上流部は視認できなかった。
- ・九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施予定（6月1日）。

<<災害対策用機械等出動状況>>（6月1日 7:00 現在）

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	火山監視	Ku-SAT	1	稼働中	5/29～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	情報収集車	1	待機中	5/30～
九州地整	屋久島町小瀬田	現地支援	待機支援車	1	待機中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	ヘリ映像中継	可搬ヘリテレ	1	稼働中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	ヘリ映像中継	Ku-SAT	1	稼働中	5/30～

(12) 財務省の対応

- ・口永良部島（新岳）噴火に係る災害を危機認定し、日本政策金融公庫から指定金融

機関（日本政策投資銀行、商工組合中央金庫）を通じた危機対応融資の対象に追加、財務省、中小企業庁及び農林水産省の連名で指定金融機関に対して同内容の通知文書を発出（5月29日）

- ・災害救助法の適用決定を踏まえ、鹿児島県に係る被災中小企業者等への対応として、窓口における親身な対応、資金の円滑な融通等を要請する通知文書を、財務省・厚労省・中企庁の連名で日本政策金融公庫等に対して発出（5月29日）

(13) 金融庁の対応

- ・災害救助法の適用決定を受け、鹿児島県内の関係金融機関等に対し、財務省九州財務局鹿児島財務事務所長と日本銀行鹿児島支店長の連名で「口永良部島（新岳）噴火にかかる災害に対する金融上の措置について」を発出し、預金の払戻時の柔軟な取扱い等、被災者の便宜を考慮した適時的確な措置を講ずるよう要請（5月29日）

(14) 国土地理院の対応

- ・過去の空中写真および災害対策用図を関係機関へ提供（5月29日）
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を撮影（5月29日）
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供（5月29日）
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真をホームページで公開（5月30日）
- ・人工衛星（だいち2号）データを用いて口永良部島の地表の状態の変化を面的に把握しホームページで公開（5月30日）

URL : <http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h27-kuchinoerabu-index.html>

(15) 気象庁の対応

- ・気象庁本庁非常体制（5月29日10:07）
- ・記者会見（5月29日11:30）
- ・気象庁災害対策本部会議を開催（5月29日13:30、18:00）
- ・九州地方整備局、四国地方整備局、鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が上空からの観測を実施（5月29日11:10、30日06:40、31日13:30）
- ・鹿児島県庁及び屋久島町役場に職員を派遣（5月29日～）
- ・復旧担当者・被災者向け気象支援資料の提供（5月29日～、毎日5時、11時、17時頃更新）
- ・気象庁ホームページに口永良部島噴火の関連情報ポータルサイトを開設（5月29日）
- ・火山噴火予知連絡会拡大幹事会を開催し、見解を取りまとめ（5月30日）
- ・口永良部島に地震計を増設する予定（6月1日）

7. 関係地方公共団体の対応等

(1) 鹿児島県の対応

- ・平成27年度第1回口之永良部島火山防災連絡会を開催（5月23日16:00）
（参加機関：鹿児島県、県警、海上保安庁、自衛隊、屋久島町、熊毛地区消防組合等）

【5月29日（金）】

- ・ 10:07 災害対策本部設置
 ※平成26年8月3日に設置した災害警戒本部から改組
- ・ 10:40 自衛隊へ災害派遣要請
- ・ 10:45 県防災ヘリ離陸。以降、上空調査を実施（11:47 終了）
- ・ 11:00 第1回関係省庁災害対策会議出席（テレビ会議）
- ・ 12:50 県防災ヘリにて傷病者等3名搬送（火傷1名、体調不良者1名、付添1名）
- ・ 16:00 第2回関係省庁災害対策会議出席（テレビ会議）

【5月30日（土）】

- ・ 17:00 第3回関係省庁災害対策会議出席（テレビ会議）

(2) 屋久島町の対応

【5月29日（金）】

- ・ 10:07 災害対策本部設置 ※平成26年8月3日より継続
- ・ 10:15 避難勧告発令（全島民）
- ・ 10:20 避難指示へ切り替え（全島民）
- ・ 10:30 鹿児島県へ防災ヘリの出動要請
- ・ 11:55 町営船フェリー「太陽」が救助のため宮之浦港を出港
- ・ 14:38 町営船フェリー「太陽」が本村港へ入港
- ・ 15:06 避難所3カ所を確定・設置（縄文の苑、宮之浦公民館、老人憩いの家）
- ・ 15:45 町営船フェリー「太陽」本村港を出港
- ・ 17:30 町営船フェリー「太陽」宮之浦港へ入港
- ・ 19:00 第1回口永良部島の噴火に係る関係機関合同対策会議（町・県・国）

【5月30日（土）】

- ・ 11:00 記者会見
- ・ 16:02 第2回口永良部島の噴火に係る関係機関合同対策会議（町・県・国）
- ・ 17:00 第3回関係省庁災害対策会議（テレビ会議による参加）

【5月31日（日）】

- ・ 10:00 記者会見
- ・ 15:00 記者会見
- ・ 16:30 第3回口永良部島の噴火に係る関係機関合同対策会議（町・県・国・九電）

【6月1日（月）】

- ・ 午前 一時入島（詳細は以下8.参照）
- ・ 15:55 記者会見

8. 一時入島の実施（政府現地連絡調整室情報：6月1日12:30現在）

(1) 目的・実施内容

- ・島内の防火・防犯対策等のため、島民の代表として消防団等が一時入島し、各住宅の戸締り、電源確認などを実施。

(2) 対象（実際の入島者）

【本村地区】 消防組合・消防団（口永良部分団）等 計 23名

【湯向地区】 消防組合・消防団（口永良部分団）等 計 6名

(3) 輸送方法

【本村地区】・・・漁船2隻

【湯向地区】・・・漁船1隻

※発着場所 屋久島：一湊港 口永良部島：本村港、湯向港

(4) 行程

- 8:28 一湊港出港。
- 9:30 本村港着。順次、作業開始。
- 9:32 湯向港着。順次、作業開始。
- 11:01 湯向地区作業終了。湯向港出港。
- 11:30 本村地区作業終了。本村港出港。
- 11:45 湯向地区作業従事者が一湊港到着。
- 12:25 本村地区作業従事者が一湊港到着。

(5) 支援

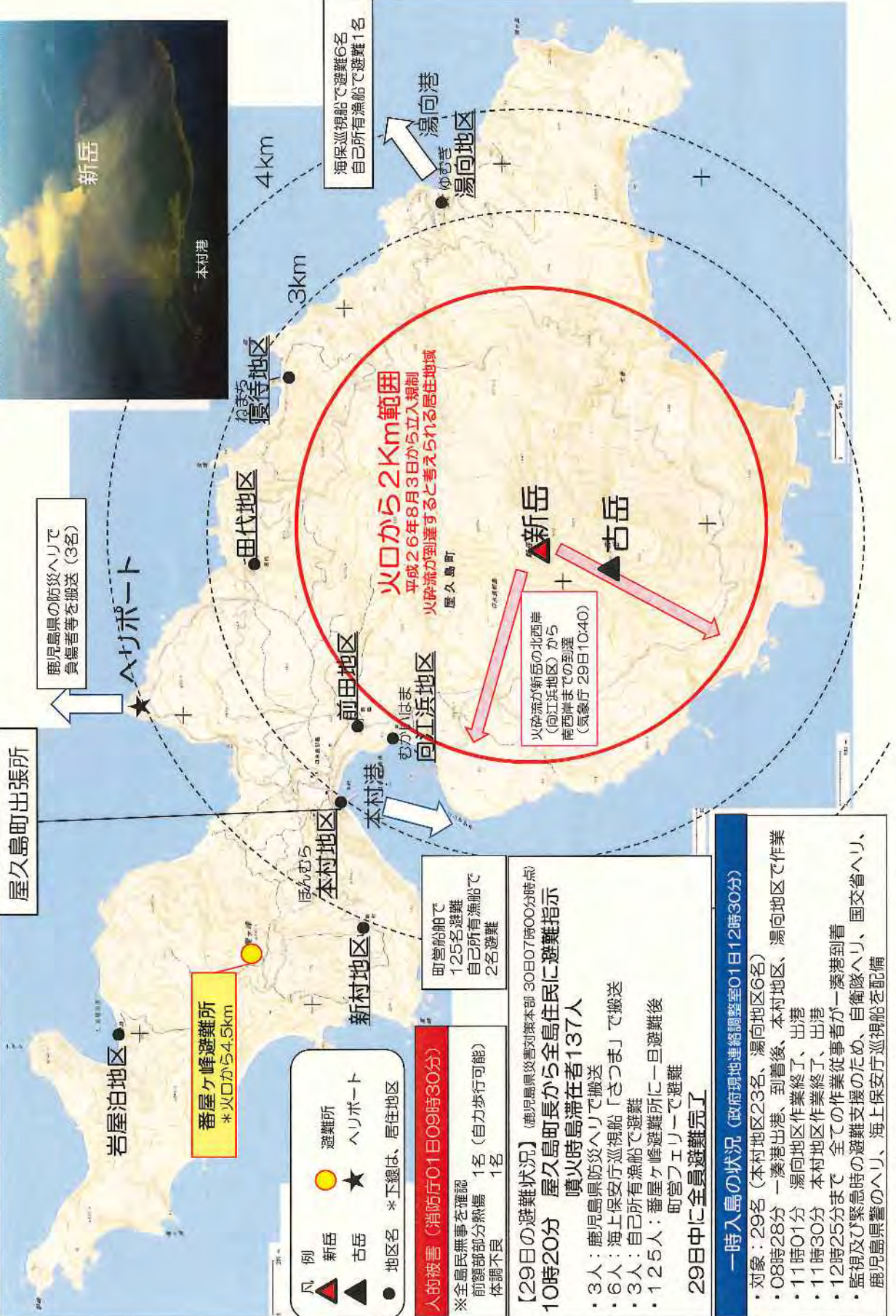
- ・監視及び緊急時の避難支援のため、自衛隊へリ、国土交通省へリ、鹿児島県警へリ、海上保安庁巡視船を配備。

平成27年06月01日16時00分時点
内閣府（防災担当）作成

平成27年5月29日 鹿島郡新岳の噴火状況等

平成27年5月29日09時59分噴火・10時07分噴火警戒レベル5に引き上げ（気象庁）

噴火状況（新岳上空写真）（地理院 29日撮影）



- 凡 例
- ▲ 新岳
 - ▲ 古岳
 - 地区名 *下線は、居住地区
 - 避難所
 - ★ ハリポート

人的被害（消防庁01日09時30分）

※全島民無事を確認
前線部分熱傷 1名（自力歩行可能）
体調不良 1名

【29日の避難状況】（鹿児島県災害対策本部 30日07時00分時点）
10時20分 屋久島町長から全島住民に避難指示
噴火時島滞任者137人

- ・3人：鹿児島県防災ヘリで搬送
- ・6人：海上保安庁巡視船「さつま」で搬送
- ・3人：自己所有漁船で避難
- ・125人：番屋ヶ峰避難所に一旦避難後 町営フェリーで避難

29日中に全員避難完了

一時入島の状況（政府現地連絡調整室01日12時30分）

- ・対象：29名（本村地区23名、湯向地区6名）
- ・08時28分 一湊港出港、到着後、本村地区、湯向地区で作業
- ・11時01分 湯向地区作業終了、出港
- ・11時30分 本村地区作業終了、出港
- ・12時25分まで 全ての作業従事者が一湊港到着
- ・監視及び緊急時の避難支援のため、自衛隊ヘリ、国交省ヘリ、鹿児島県警のヘリ、海上保安庁巡視船を配備

鹿児島県の防災ヘリで
負傷者等を搬送（3名）

海保巡視船で避難6名
自己所有漁船で避難1名

火口から2Km範囲
平成26年8月3日から立入規制
火砕流が到達すると考えられる居住地域

火砕流が新岳の北西岸
（向江浜地区）から
南西岸までの到達
（気象庁 29日10:40）

避難者の避難状況

【(屋久島町災害対策本部 05月31日 18時00分時点)】

- ・噴火時島滞在中者 : 137名 (このほか、噴火時に島外に所在していた島民1名が避難所に滞在中)
- ・避難所の避難者数 : 40世帯64人
- ・その他の避難者については、屋久島の親戚や知人宅、ホテル等で避難。



【地図使用承C昭文社第566G029号】



(参考) 避難所の状況

- ・各避難所に町職員を4名ずつ配置炊き出しを実施
- ・避難所近くのホテルでお風呂の提供
- ・洋式トイレの確保
- ・(2施設は整備済、残り1施設は洋式仮設トイレ搬入中)
- ・県から保健師2名派遣。避難所3か所を巡回し、避難者の健康状態を把握